

令和2年度 東京都立鹿本学園 学校経営報告

本校は、肢体不自由教育部門（小・中・高）と知的障害教育部門（小・中2）の2部門5学部を設置する新たなタイプの併置型特別支援学校として開校7年目を迎えた。開校以来本校の発展に貢献してきた教職員が異動となり、新たな教職員に役割を引き継いだ。この大きな変革の時期に新たな教職員の新鮮な感覚を活用し、新型コロナウイルス感染防止やGIGAスクール構想をはじめ、学校経営上の課題解決に挑戦して成果を上げ続ける組織へと成長・発展させた。令和2年度から令和4年度の3年間の学園のあるべき姿を「全教職員が更なる成長・発展を目指す学園」として「Change×Challenge=Chance!」のスローガンを掲げ、中期的目標の実現と学校課題の解決に果敢に挑戦していくことで転機を好機に変えていった。（※以下、肢体不自由教育部門をS部門又はS、知的障害教育部門をN部門又はNと表記する。）

1 今年度の取組と評価

(1) 重点目標に関する数値目標と実績値及び今年度の取組

重点目標1 併置型学園としての魅力ある教育の充実・発信 自己評価：○

数値目標 全関係者評価「併置型学園としての魅力ある活動を推進することができる」 $\geq 90\% \Rightarrow 88\%$

全関係者評価「学校内外の活動をHP、FB等の活用により情報発信ができています」 $\geq 90\% \Rightarrow 96\%$

取組 併置校の魅力充実プロジェクトの推進

- 併置型学園としての魅力ある教育活動の充実・発信（都指定校等）
「両教育部門の教育活動全体をとおして、キャリア教育を中心としたカリキュラム・マネジメントの推進」
「都立特別支援学校における社会貢献活動モデル事業」「言語活動及び読書活動の充実事業研究指定校」「特別支援学校におけるスポーツ教育推進指定校」「S部門準ずる教育課程におけるICT機器を活用した遠隔教育実施モデル校」
- 各学部、各教育課程での育てたい力を明確化、年間指導計画、カリキュラムシート等の作成、活用、評価のPDCAサイクルの確立
- 東京2020のレガシーとして「しかもと音頭」ソーシャルディスタンスバージョンを創作し、児童・生徒、教職員によるプロモーションビデオ作製、継承される伝統を確立
- 全学園生によるリモート対戦でのレクリエーションポッチャ大会を開催し一体感向上
- 全学園生による作品展示や合同書道展等の開催による一体感の創出
- 地域共生社会の創出へ向け広報活動、ポッチャによる理解推進、地域支援による関係性強化

重点目標2 効率的・機能的な学校組織の確立による組織力向上と環境整備 自己評価：◎

数値目標 委員評価「組織的・効率的な業務改善を推進し、ライフ・ワーク・バランスの意識向上や新型コロナウイルス感染症による臨時休業期間中のテレワークの推進を図ることができる」 $\geq 85\% \Rightarrow 100\%$

取組 学園を運営するシステムの更なる改善

- テレワークの申請、開始・終了報告にWebフォームを活用しサービス管理業務を劇的に改善
- 毎日の消毒、机間シールド板の設置、教員執務室の分散化等で感染予防策実施を徹底
- クラウドを活用したスマートフォンの内線化により、在宅勤務で児童・生徒の安否確認を実現
- 時間外にメッセージ電話導入、定時退庁日、学校閉庁日、休暇取得促進月間・週間の設定等の働き方改革

- ・児童・生徒の欠席連絡をメールによる受付に変更、夜間、早朝でも連絡できることで保護者に好評
- ・Web フォームでの学校評価実施で集計時間大幅短縮、保護者回答率68%から89%に20ポイント以上改善
- ・卒業後を見据えた児童・生徒、教職員間の言葉遣いの改善
- ・主幹教諭補佐機能を重視した主任教諭等への活躍機会の提供による能力開発・人材育成を実施。主幹教諭昇任4名
- ・大量異動期における校内ルールや校務ノウハウの蓄積・整理・共有の的確な実施による業務改善

重点目標3 専門性のある人材を活用した教育の充実 自己評価：◎

数値目標 委員評価「自立活動指導員や外部専門員を日々の指導に活用し、授業改善、教材充実が図られている」
 $\geq 85\% \Rightarrow 100\%$

取組 人材活用・協働システムの更なる改善

- ・S学校介護職員と教員の協働体制の充実と教育支援、医療的ケアのスキルアップ及び専門機関連携による専門性向上
- ・カフェや栽培園芸のノウハウを有する企業の専門家からの助言を活用した作業学習の充実
- ・個別指導学習と連動した外部専門家による授業者支援・保護者支援と言葉・数の獲得につながる指導の充実
- ・N外部専門員を人材活用した教育環境整備、授業改善、校内研究の充実及び教材充実
- ・N発達臨床心理士を活用した授業者支援

目標1 教育課程の充実 ☆社会参加に向けた確かな学力の獲得 自己評価：◎

学校評価 委員評価「児童・生徒の将来を見据えた、キャリアと自己肯定感を高める教育が進められている」
 $\Rightarrow 100\%$

取組 新たな教育課程の開発・実施

- ・共生社会を担う人材育成のため、カリキュラム・マネジメントに関する実践研究の推進と実践研究発表
- ・キャリア発達の視点を重視した学習活動の展開（S小SDGs発表、S中生徒会演説、S高実習報告会）
- ・オリンピック・パラリンピック教育の視点も踏まえたスポーツ教育の推進。他校とのリモートボッチャ大会実施
- ・カフェ営業等を通じた生徒の就労意欲向上
- ・ALTを活用した外国語活動、英語指導の充実
- ・普通科進学者への丁寧なガイダンス、就業技術科・職能開発科志望者への受験指導と面接指導の実施

目標2 授業力の向上 ☆個別学習等の「個に応じた学習指導」の力量形成 自己評価：○

学校評価 保護者評価「日々の授業について指導環境の整備や教材の工夫や、分かりやすい授業の充実が図られている」
 $\Rightarrow 92\%$

取組 授業力向上システムの定着

- ・授業者支援会議で得たノウハウの蓄積による改善策の共有と活用
- ・S学習指導アドバイザー等外部専門員を人材活用した授業者支援・保護者支援の実施
- ・授業力向上・教育支援研修の実施
- ・指導に関する説明力の向上をねらい、授業参観ガイドの配布
- ・教材作成アドバイザーを活用した教材作成の活発化

目標3 言語能力の向上・読書支援の推進 自己評価：○

学校評価 保護者評価「教職員の適切な言葉遣いや読書活動を通して、児童・生徒の言語環境は高められている」

⇒91%

取組 言語能力向上（含む読書支援）プロジェクトの推進

- ・遠隔授業、弁論大会、読み聞かせ、調べ学習等、両部門での多様な言語活動を実施
- ・本の貸出管理、読書推進活動等、図書館の運営ノウハウの情報提供
- ・オープンライブラリーやICT等を活用した思考力、判断力、表現力等を伸ばす指導の実施
- ・タブレットの活用による調べ学習の充実やプレゼンテーション能力の向上、情報モラル定着の授業実施
- ・視線入力装置等を活用した意思表示や自己決定力を高める実践研究の推進
- ・言語能力や文字に関する能力を高めるための指導技法を学ぶ授業力向上研修の実施
- ・企業との共同開発研究によるマルチメディアDAISYの利用拡大

目標4 児童・生徒が安心して学校生活を送れる生活指導體制の構築 自己評価：△

学校評価 委員評価「障害特性を踏まえた防災教育や、安全な施設設備の整備を意識・実践することができている」

⇒100%

関係者評価「スクールバスの安全発着体制や一人通学の指導體制構築等、通学環境の整備ができている」

⇒100%

取組 安心・安全プロジェクト

- ・障害特性をふまえた宿泊防災訓練等の防災教育を実施
- ・地域防災訓練への継続的な協力と宿泊防災訓練時の連携等の地域との災害時相互協力関係を構築
- ・インシデント・アクシデント報告の徹底と事故を教訓とした再発防止訓練の実施
- ・施設・設備利用に関する安全な利用方法の確認
- ・通学環境の整備（SB発着体制、送迎車両対応、一人通学ステップ確立、通学路点検）
- ・体罰いじめ根絶に向けたアンガーマネジメント、カウンセリング研修実施、服務事故防止研修の内容・方法の改善
- ・自殺防止／都教委作成指導資料の活用、児童生徒への相談先の周知

目標5 安心できる保健体制と安全で美味しい給食を提供できる体制の構築 自己評価：◎

学校評価 関係者評価「安心・安全な医療的ケア制度の啓発と医療的ケア体制が実現されている」

⇒90%

関係者評価「適切なアレルギー対応を行うとともに、摂食機能を高める安全でおいしい給食を提供している」

⇒95%

S部門関係者評価「医療的ケアの実施に関して、看護師と教職員の協働体制が図られている」

⇒86%

取組 併置型学園に適した保健・給食システム構築プロジェクト

- ・大量異動期に備え、効率的・合理的な保健業務の改善実施、業務の「見える化」推進
- ・適切なアレルギー対応を行う為の教職員の資質向上研修及び校内体制の点検実施
- ・都方針に基づく安心・安全な医療的ケア制度の啓発並びに適正な医療的ケア体制の堅持
- ・医療的ケア専用通学車両の円滑な運行と車内での安全な医療的ケアの実施、非常勤看護師の同乗
- ・医療的ケアに関するインシデント・アクシデント情報の周知と事故再発防止の徹底、研修の実施
- ・学校介護職員を人材活用した医療的ケア体制の一層の充実
- ・安全で美味しい給食（約670食）の提供とリクエスト献立等、楽しい給食の工夫

目標6 地域支援力の向上

取組 関係セクションとの連携と家庭支援の充実 自己評価：○

- ・学校介護職員志望者見学会の開催による人材発掘
- ・高等部進学及び高等部卒業後の社会参加を見据えた進路学習及び保護者支援の実施
- ・学校外活動等の情報発信や地域向け情報発信（HP等の活用）
- ・固定学級支援、放課後デイ施設職員対象研修会の実施等、地域の施設及び教職員への支援実施
- ・適性就学につながるリモート学校公開とWebフォームを活用した個別相談の実施

目標7 魅力ある学校環境・職場環境の創出 自己評価：○

学校評価 保護者評価「清潔で美しい学校環境を整えることができる」⇒93%

取組 オフィス化計画

- ・掲示板の整備・活用、花壇・植込み・農場の美化・整頓等、愛校精神の基盤となるように清潔で美しい学校環境整備
- ・絵画作品等の常設展示、クリーン職員室の定着等、職場環境整備を実施
- ・保護者の協力等による読書活動推進のための教育環境整備

目標8 新たな特別支援学校・教育部門への開設準備及び開校後支援 自己評価：○

取組 蓄積情報の提供や人材協力

- ・花畑学園、臨海青海特支、光明学園等への開校後支援
- ・他校支援や10周年記念に備えた、成果物の収集・整理・保存・記録と発信

研究目標 教育活動の一層の充実につなげる全校的実践研究の推進

取組 潜在的な教育力のパッケージ化、独自資源を活用した教育の特色化

全校研究テーマ「地域の中で主体的に生きる力を育む指導の工夫」

2月5日全国公開研究会をWeb開催、基調講演と4分科会についてはオンラインで実施

- ・基調講演 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 中村 大介 様
「新学習指導要領に基づいた指導計画の立案と学習評価」
- ・S：自立主課程・知的代替課程／「小中高の12年間の系統性を意識した指導方法の工夫」
- ・S：準ずる課程／「社会生活を送るために必要な資質・能力の育成」
- ・N：小学部／「社会と関わるための基礎的なコミュニケーションを育む授業づくり」
- ・N：中学部／「社会生活に生かす目標設定とアセスメントに基づいた授業づくり」

本校の特色ある取組はオンデマンド動画で発表

- ・校長講演 「新型コロナウイルスに立ち向かう本校の取組」
- ・研究概要説明
- ・セミナーA 「オンラインを活用した全校ポッチャ大会について」
- ・セミナーB 「コロナ禍におけるオンライン授業・学習動画配信の実践」
- ・セミナーC 「特別支援学級への支援」
- ・全校児童・生徒・教職員の参加による「しかもと音頭」プロモーションビデオ

2 次年度以降の課題と対応策

(1) GIGA スクール構想を具現化する「鹿本デジタル学園」の創出

- 全児童・生徒に配布されたタブレット端末や入力補助装置、VR を活用した「学び方革命」の推進
- 業務デジタル化の徹底による教職員の働き改革の実現

(2) 東京都特別支援教育推進計画（第1・2期）への参画と貢献

- 令和4年度学区区域変更之际し葛飾区在住のS部門児童・生徒の水元小合学園への円滑な学籍異動
- 臨海青海特別支援学校学区区域在住児童・生徒の転校足進
- 持続可能な学校経営に向けた在籍児童・生徒数の増加抑制と学区域縮小の提言
- 同じ障害部門・学部構成で開校した花畑学園への開校後支援

(3) 新中期計画を踏まえた教育指導の充実 ※新中期計画は令和2年度経営計画参照

- 職業教育・キャリア教育の充実
 - S：在宅・在校企業実習も含めた就労・進学の可能性追求、卒業生のフォローアップと進路情報還元
 - N：江東特支高等部蹴鞠開発科を念頭に置いた進路ガイダンスの展開及び保護者への情報提供
- N中への早期からの高等部出願選択に関する情報提供と相談に基づく特別指導プログラムの提供
- 平成28年度「キャリア教育推進優良学校：文部科学大臣表彰」を受けての普及活動と成果還元
 - ⇒S・N小学部からのキャリア教育実践の推進（キャリア発達を促す指導プログラムの開発と展開）
- 平成29年度「子供の読書活動優秀実践校：文部科学大臣表彰」を受けての普及活動と成果還元
 - ⇒全校読書活動のノウハウ提供、アクティブ・ラーニングの視点を加味した調べ学習の展開
- 経営テーマ「魅力ある併置校としての創造的実践」の追究並びに各部門の専門性向上

(4) 人材育成の継続・充実

- 共生社会実現のための人材育成
- 今後の併置校運営を担うリーダー人材の育成
- 授業力リーダーの育成（東京教師道場受講・修了者の成果還元と人材活用、指導教諭の人材活用）
- 特別支援教育を担う若手教員の人材育成

(5) 令和2年度学校経営報告及び学校評価に基づく対策

- 人権を尊重した指導と言語環境の改善 → マイナス評価ゼロを目指し、愛情を含めた丁寧な語り掛けの徹底。
- 外部専門員との連携・活用で、保護者の11%が不明、3%がマイナス評価 → 連絡帳で外部専門員の助言を保護者と共有し、外部専門家ニュース内容の充実を図る
- 開校から7年経過し保護者・教職員に理解が定着したと思われる事項も新たな転入者向けに再度周知する。
- 記名式で回答いただいた保護者からの改善策の提案については見える形で改善・報告を進める。